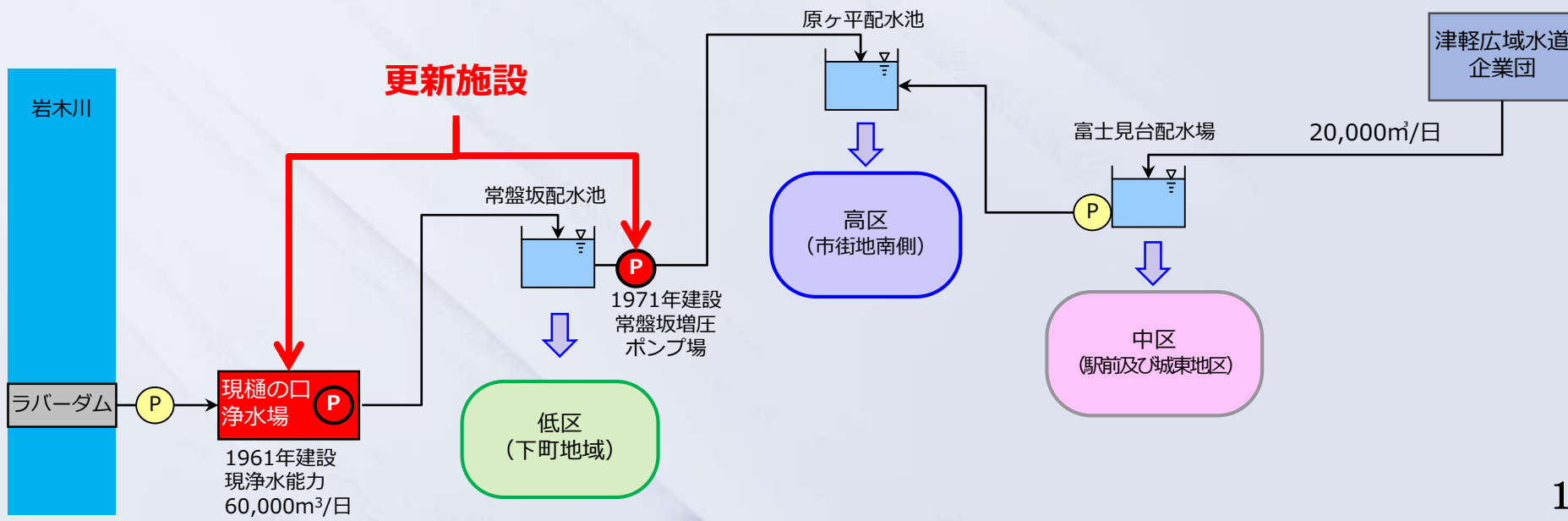
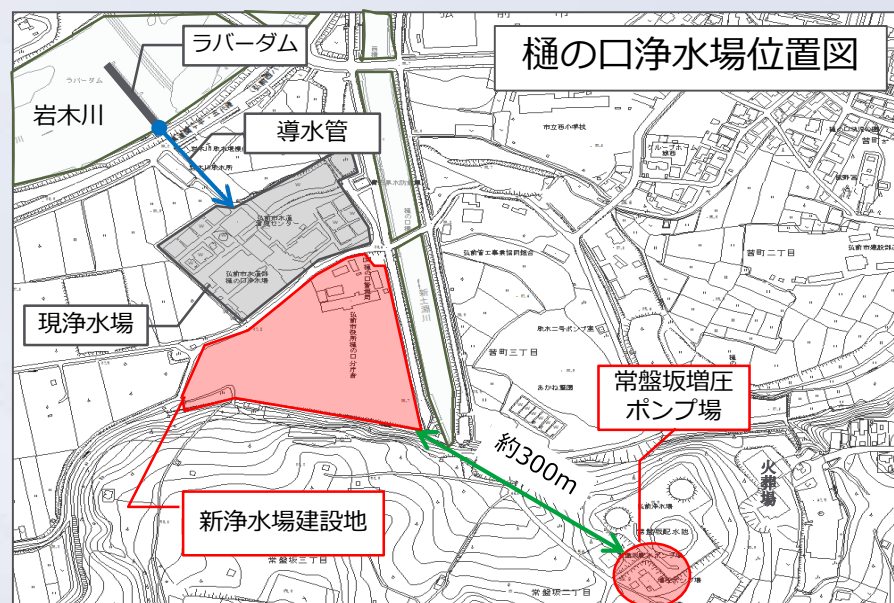
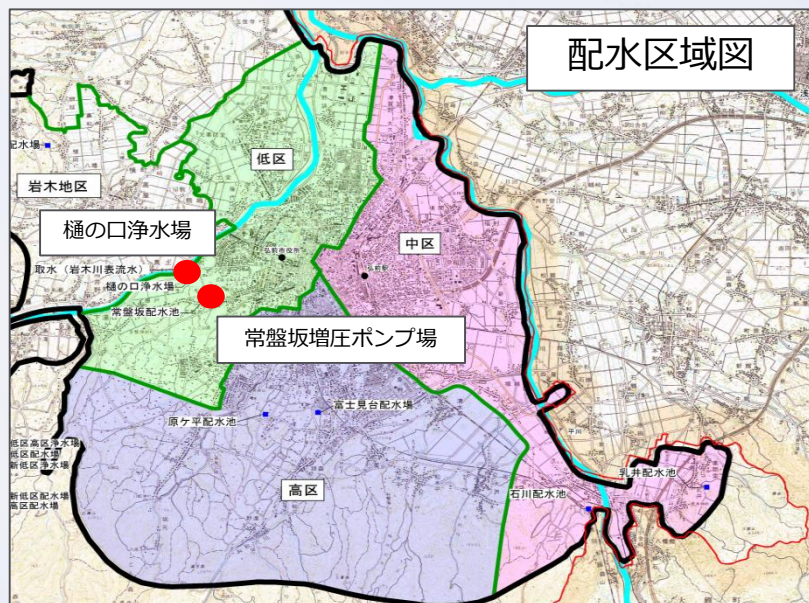


樋の口浄水場等建設事業について

平成30年8月27日

弘前市上下水道部

1. 事業概要



2. これまでの経緯

2009～2013年度
(平成21～25年度)

樋の口浄水場の
適正規模の検討

- ・ 現設能力60,000m³/日を将来水需要予測を基に38,000m³/日へダウンサイジングする案を検討し、基本設計を実施。

2015年度
(平成27年度)

発注方式の検討

- ・ 基本設計による概算工事費を、直営発注方式と官民連携手法で比較検討し、官民連携手法が費用面で有利である。

2016～2017年度
(平成28～29年度)

浄水場更新プランの検討
官民連携手法の検討
一括発注の検討

- ・ 浄水場規模の4つのプランを検討し、定量的・定性的に現行案の38,000m³/日が最も有利であることを確認した。

【前回経営審議会時点での検討項目】

- ・ 官民連携手法のPFI方式を検討
(従来検討していたDBO方式との比較)
- ・ 常盤坂増圧ポンプ場を一括発注とした場合の検討

3. 検討結果

① PFI方式の検討結果について

- ◆ 民間事業者が資金を調達するため、金利や税負担が多くなり、コスト削減が図りにくい
- ◆ DBO方式に比べ、VFM（費用削減率）が少ない

⇒ よってVFMが一番大きいDBO方式が有利であることを確認した

② 常盤坂増圧ポンプ場を一括発注した場合の検討結果

- ◆ 個別発注に比べ、一括発注によるスケールメリットにより総事業費の削減が図られる

⇒ 一括発注が有利であることを確認した

4. 実施方針（案）

- ① 施設能力：38,000m³/日
- ② 事業内容：樋の口浄水場及び常盤坂増圧ポンプ場の更新事業を実施
- ③ 事業手法：DBO方式（選定方式：公募型プロポーザル）
- ④ 事業費用：

【DB（設計・施工）部分の費用】

約106億円※（樋の口浄水場 約86億円、常盤坂増圧ポンプ場 約20億円）

【O（運転管理）部分の費用】

約13億円※（人件費のみ。約8600万円/年×15年間 日中4人×(夜間2人×2交替)
電力料、薬品費等はアドバイザー業務の中で算定）

（参考）

【平成29年度実績】

- ・ 樋の口浄水場
電力料：約5300万円
薬品費：約1900万円
- ・ 常盤坂増圧ポンプ場
電力料：約3100万円

※：現時点での概算であり、今年度発注予定の樋の口浄水場等建設事業
アドバイザー業務にて最終的な事業費が算出される。

5. アドバイザリー業務について

◆アドバイザリー業務とは

DBO方式では、公募資料（要求水準書等）が市の意図を示すための最も重要なものであり、建設される施設の質や効率性に大きな影響を及ぼし、提案を行う民間事業者の創意工夫の幅を左右する。

そのため、専門的知見・ノウハウを有する業者から公募に係る作業等の支援を受ける必要があるため、アドバイザリー業務の発注を今年度予定している。

■ 支援内容

- ①公募に向けた資料等作成への法的、専門的助言等による支援
- ②選定された民間事業者との契約行為における法的支援

6. 事業スケジュール（案）

① 2018～2019年度

民間事業者選定・契約締結

◆樋の口浄水場等建設事業アドバイザー業務の中で公募をし、
民間事業者選定委員会において民間事業者選定を行う



- ・公募資料の審議（2018～2019年度上半期）
- ・民間事業者の提案、技術を評価し、事業者選定（2019年度下半期）

② 2020～2025年度

調査・設計・建設（1年半 + 4年半 計6年）

③ 2026～2040年度

運転管理（15年）

契約締結

供用開始



年度 更新施設	2018年度		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度～2040年度	
樋の口浄水場 常盤坂増圧ポンプ場		民間事業者選定 (アドバイザー業務)		調査・設計 1年半		建設工事 4年				試 運 転 半 年	運転管理 15年
<div>6 年</div>											